

大椎小学校学校田んぼ体験 - 稲刈り～脱穀

大椎小学校5年生による小山町学校田んぼについて担任の先生方と児童のみなさんから稲刈りから学校で行った千歯こきによる脱穀体験についての感想文をいただきましたのでご紹介します。

稲刈り

- ・稲刈りの時、私は、「指を切ったりしないかな」と思ってすごくドキドキしました。最初は、失敗ばかりだったけど、なん回もやっている内に、上手になれて、うれしかったです。大変だったけど、すごくたのしかったです。ありがとうございました(H.S)。
- ・ぼくが稲かりをして、最初の時は、手を、切りそうでしたけどなれてくると稲かりは、おもしろいな、と思いました。稲かりの終わった後にやったわらで稲をまく作業は、思ったよりもむずかしかったです。だけど、稲をまく作業は、とても楽しかったです(M.M)。
- ・私は、稲かりも田植えも初めてなので、とても楽しみでした。カマをもって稲の下から20～30cmのあたりを少しずつかるのです。1人9回やって始めは、なかなかカマが通らなくてとても苦労しました。でも6～7回やってたらだんだん上手になってきました。9回目の時は一回、カマを当てたんですごくにかりとることができました(I.M)。
- ・稲かりをするときに、かまのさきが、ギザギザになっていて、いねをかるときにななめにむかって、かるとかたんにかりとれました。かまはきけんだったです。1人9かぶやってはじめは力でもやっていたけれど、ななめにかると、速くて、だんだん慣れてきました。稲をわらでしばるのがむずかしかったです。3つやって1つにするまで、じかんがかかりました。たのしかったです(H.Y)。
- ・最初のころはかまの中心くらいの所でかっていたけど私たちの班についてくれた方にかまのねもとのほうで切るとよく切れるよとアドバイスをしてもらったのでやってみたら前よりもすごく切れやすくなってはやく終わりました。最初は大変だったけどアドバイスをもらってからは、すごく楽しく稲かりができました(O.T)。
- ・今回の目的は、「説明をよく聞いて、安全に稲かりをする。」でした。初めは、「かたそうだな!不安だな」と思って順番をまわっていました。景色は、田植えのときと全くちがいで、秋は茶色が多かったです。みんな稲かりでは、安全に、正しくやっています。自分の番になり、切れないのもあり、大変でした。束を作るときは、きつくなったり、ゆるくなったりしていて、大変だったです。昔は、機械が無くて、大変ということをよく学びました。田植えの時は、伸びていなかったなえが、稲かりのとき、見たら、すごく、伸びて、びっくりしました(K.Y)。
- ・初めての稲刈りでした。使う道具は、カマです。農家のおじさんは、何回か、けがをしたとおっしゃってました。カマを使う時のやり方は、ななめにあて、自分の方にグッと引きます。引く時には、かなり力が必要なので、終わった後は、疲れしました。楽しかったので、思い出になりました(S.Y)。
- ・田植えをしてから何ヶ月かたった、その田んぼに行った時はびっくりした。あんなに小さかった「なえ」が、りっぱな実をつけているのだ。ところどころには黒い実もあった。いねかりは大変だったけど、いっぱい実ってよかったです(M.T)。

た谷津田が見れているんな発見をしました。その中でもあけびを食べたことが一番の発見でした。最初に見た時は苦そう食べる気が進まなかったけど、食べたらすごいあまくておいしかったです。こんな時期でこんなところにあるなんてびっくりしました。今度は春の谷津田が見てみたいですよ(H.T)。

・夏と秋の谷津田は、いくつか変わったところがありました。1つ目は、夏と比べて、空気がさっぱりとしていたところです。2つ目は、夏には見られなかった、千葉市絶滅危惧種のほとけじょうや、赤茶色ばいカエル「日本アカガエル」が見られたことです。3つ目は、夏と秋の草や木の色です。夏は、こい緑で、生き生きしていました。秋は黄色や紅で、紅葉してとてもきれいでした(H.S)。

・まずはアケビは、中の白いところは食べられます。味はあまいけど種の部分にはがかったです。花はキバナアキギリでみつをのうとすると花粉が虫につくしくみになっています。魚だとホトケドジョウに会いました。小さいのから大きいのがあって顔からひげがでていてかわいかったです。あとタイコウチが川にいました。力が強そうでした。他にも小さなカエルや、大きなカエルがいました(K.M)。

・あけびの実は見ためがいもむしのようなだったので、食べるのがいやでしたが、食べてみたら意外にあまくておいしかったです。水路にホトケドジョウやタイコウチなどがたくさんいました。あみをかりてとってみたら3びきくらいだったけど本物を見たことがないのでかんげきしました。あと木と木のすき間にブルーベリーみたいな実があって食べてみたらとても苦かったです。おもしろかったです(Y.T)。

・10月12日に、自然観察をしました。自分でも知らない生き物や植物が沢山ありました。春よりもシュレーゲルアオガエルが大きくなっていました。エンマコオロギもいました。とても小さな、25cm位のヘビもいました。地下水も流れていて、夏つめたく、冬温かく感じられるそうです。自然観察会で、春と秋のちがいを見つけられてよかったです(M.S)。

・私は、自然観察をして谷津田の自然のことがいろいろわかりました。例えば、シュレーゲルアオガエルは、川に落ちてしまったりと流れていちゃうことや谷津田に流れている水は、冬になると温かくて夏や秋になると冷たくなるということです。5年生になってから谷津田の自然観察をしてきて春から秋にかけての植物の変化も見ることができたのでよかったです(M.R)。

・稲かりをするために、谷津田に行ってみると、カエルやコオロギなど、ほとんどの生き物が、大きくなっていました。稲もすくすく大きくなって、穂がたれさがっているものも多かった。植物も、すっかり、かれはてしていた(M.K)。

・ぼくは、秋の谷津田を観察して、変わった所は、アケビがあったり、トンボが飛んでいたり、アカガエルが春のころよりも、大きくなっていました。ぼくはこのような変化を初めて見て、びっくりしました。また、観察をしたいです(M.Y)。

千歯こき

・ぼくは、先生がやっている時はかんたんそうにやっていた、やってみると稲が間にひっかかって、うまくできませんでした。でもわりばしでやるよりはいいと思いました。うまくできなかったけど楽しかったです(I.S)。

・ぼくは、千歯こきを見てもみがたくさんとれると思いました。やってみたらかなりむずかしかったです。わりばしよりも千歯こきのほうがたくさんもみがとれてとても便利だと思いました(A.Y)。

・はじめは、わりばしで籾をとっていました。わりばしはよくとれ、かんたんにできました。せんばこきをやった時はすごくとるのがむずかしかったです。それをうまくやるには、こつが必要でした。先生から少しこつを教えてくださいました。



自然観察

- ・ぼくは、谷津田で秋の自然観察をしました。夏とはちがっ



うまくとるには、ななめに引くことでした。はじめ、こつを知らずにやっていた時は、ひくのがすごくむずかしかったです。でも、わざどおりにやったら、とてもかんたんにとることができました。しかもたくさんの稲をいっきに、とれるのでよかったです。はじめてやり、良い経験になりました。またできれば、もっとこつをつかみ、やってみたいですね(0.T)。

・わりばしですこしずつだっこくをがんばりました。せんばこきをつかうといっぺんにだっこくができました。けれどもすごく力があるのでとてもつかれました。でもそういうのが一回たいけんできてよかったと思いました。わたしはこういうたいけんをしてお米をつくる人の苦労がよくわかりました。これからはごはんをなるべくのこさずたべたいです(S.R)。

・私は、この前初めて千歯こきをやりました。何も知らなかったの、何をしていいのかも分からなくて、とまどいました。自分の番になって、やるときは、ドキドキでした。軽く引いたけどぬげなくて、力いっぱい引いたらきれいにお米がおちました。最初はドキドキだったけどやって楽しかったです(T.S)。

・私は、5年生になって初めて千歯こきというものを使いました。千歯こきは、わりばしを使うよりもいっきに作業ができました。けれど力をけこう使うので大変でした。2回位しかできなかったのあまりコツをつかむことができなかったのそんな上手にできませんでした。でも2回目は1回目よりも上手にできました。このようなことを体験して農家の方々の大変さがよく分かりました(H.C)。

・私は初めて千歯こきを使いました。何本かの稲を束ねることから始まり、千歯こきを使う順番が回ってきました。先生達に、「力が必要ですよ。」といわれたので、おもいきり引張たら、「ガタガタガタ」とゆれて、大量の稲が下に落ち、うまく、二回やっただけで、千歯こきを使う作業が終わりました。先生にも、「うまい!」と言われて、とてもうれしかったです(S.A)。

・千ばこぎはだっこくをする道具で手でやるよりもかんたんにできますがものすごい力が必要でした。昔は手間ひまかけて米を作っていたのだから今では機械を使ってかんたんにできて、この技術は昔の人のやり方、方法があったからできると思います(N.K)。

担任の先生方より

<大椎小のたんぼ>

秋の谷津田は「実りがいっぱい」でした。大椎小の田んぼも稲穂がさわさわと揺れていて子どもたちは「へえ〜っ」と感心することしきりでした。夏の嵐のような大雨の中大人2人と子ども1人で草とりをした日を思い出しました。秋風の中とんぼの見守る中担任4人でのカメ虫退治も楽しい思い出になってしまいました。ボランティアのお母さんたちのカメ虫退治もご苦労様でした。秋の谷津田は、子どもたちの歓声とYPPの方たちの笑顔に見守られていましたね。いろいろありがとうございました。

<谷津田の自然観察と稲刈り>

葛岡 弘美
田植えのときには小さな苗だった稲がこんなに大きく育ち、お米ができていくことに子どもたちはびっくり。稲刈りができるまでにYPPの皆さんやボランティアの方々にたくさんお手伝いいただいたことに感謝いたします。また、自然観察では生き物や植物について丁寧に教えていただき子どもたちは貴重な体験や発見をすることができました。季節によって変わる谷津田の自然の素晴らしさに気づかせてくださったYPPの皆さん本当にありがとうございました。

<実り>

脇本 悟志
「ザッ」「ザッ」、鎌を入れる度に1本1本の茎の太さを感じます。きちんと研いである鎌もさることながら、立派に成長した稲に感動しました。田植えの時は見下ろしていた稲が、稲刈りをするためにしゃがんだ自分を見下ろしている。手の平に乗せられた苗の株は、今や両手でかかえるほどの稲の束になっている。自分達で育てたからこそ、分かることだと思います。協力してくださった保護者の皆さんやYPPの皆さん本当にありがとうございました。

<稲刈りを終えて>

宮田 泰世
刈り取った稲をしっかりと抱えて学校まで運んだ。途中で、稲穂がチクチクしてかゆくなったが落とすまいと手に力を入れる。やっとの思いで学校に到着。プールサイドのフェンスに干した稲のカーテンを見てみんなで感動した。来年もがんばろう!!

谷津田いきもの図鑑 No.14

「モズ」

キチキチキチ〜と谷津に響き渡るモズの大きな鳴き声(高鳴き)を聞くと秋の訪れを感じます。ずんぐりした体型につぶらな瞳が何とも愛くるしい姿の野鳥ですが、実はスズメなどの小鳥も襲うハンターで、木の枝に止まって長い尾を振りながら餌がないか下の様子をつかっている様子をよく見かけます。冬の下大和田のアシ原にいるエナガの群れに急襲してエナガが大騒ぎになるのを見たことがあります。くちばしの先がカギ型になっているのは肉を引き裂くため、けがをしたモズをもしつかむことがあったらくちばしに注意した方がよいそうです。

秋に高鳴きをするのは冬を過ごす縄張りを確保するためです。縄張りが隣り合う個体が激しく鳴き交わしたり、追いかけてあつたりする様子を見るのがよくあり、気性の荒さを感じさせます。「鴟(モズ)の声かんにん袋破れたか」-小林一茶の句で、モズの縄張り宣言の激しさを表現しています。捕まえたカエルやバッタ、トカゲなどを木の枝などに刺しておく「はやにえ」という習性があることがよく知られていますが、なぜはやにえをするのかについては未だにわかっていません。

1月終わりごろにはじまる恋の季節になると他の鳥の声を取り込んだ複雑な歌声を披露します。ホオジロ、ツバメなどのさえずりを本物そっくりにまねるのはさすが百舌(モズ)です。オスから餌のプレゼントをもらうメスが子どもの鳥のように羽を小刻みに振るわせるのは何とも微笑ましい光景です。

一年中、谷津で暮らしていますが真夏の間、姿を消す時期があります。いったいどこで何をしているのやら?これもモズの不思議の一つです。

(高山邦明)



(下大和田にて、'070121 撮影:高山邦明)





里山たんけんレポート

第 96 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2008 年 1 月 6 日(日) 晴れ

今日は観察会と谷津田プレーランドプロジェクトのどんど焼きと昔遊びの同時開催となりました。午前中に鳥の観察、午後からどんど焼きと昔遊びの運びとなりました。天候に恵まれ穏やかな暖かい日和となりました。越川重治先生から谷津田の自然、貴重性などの話を伺いながら少し下流域まで足を伸ばしてウォッチングしました。ノスリが青空を舞い、あんな高いところから餌を探せるんだらうかと話題になりました。瞬間、瞬間に姿を垣間見るしか出来ない鳥が多かったのですが、ルリビタキはこちらがじっとしているとすぐ姿を現してくれ可愛い姿を堪能しました。ペニマシコなど 20 種を観察しました。また、広場でイベントを楽しんでいるときにダイサギやアオサギが飛んだり、観察会前後で 4 種が出て全部で 24 種を記録しました。スコープで観察できる場面がほとんどないなど、例年に比し鳥そのものの数が少ないように思えました。今後に期待して観察会は終了しました。

(参加者 大人 11 名 こども 2 名; 報告: 網代春男)

第 80 回 下大和田 YPP 「どんど焼きと昔あそび」

2008 年 1 月 6 日(土) 晴れ

風のない穏やかな晴天のポカポカ陽気に恵まれて、絶好のどんど焼き日和となりました。同時開催の観察会をゆっくり楽しんだら広場に帰ったのは昼近くになっていました。観察の間に食事の準備が進んでいて、焼けるお餅や煮える鍋のよい香りが漂っていて、思わずそちらにみんな引き寄せられてしまったのですが、その前にどんど焼きに点火しないと！火起こしの競争です。今回はいつも使っているコマのような火起こし器に加えて、キリモミ式(穴をあけるキリを使うように手で回すタイプ)、ヒモギリ式(二人ペアになって一人が棒を支え、もう一人がその棒に巻き付けたヒモを引いて回すタイプ)も登場しました。「煙が出た!」「すごい!すごい!」「もうちょっと、もうちょっと、がんばれ!」「あ~、消えちゃった・・・」さまざまな歓声やため息が聞こえてきます。苦戦の末、ヒモギリチーム(福満・金谷・高山)が見事火を起こすことができました。火は一気に燃え上がり、かかしの竹がはじける大きな音が谷津に響き渡ります。これで今年もみんな無病息災、



みんなで火起こし!(撮影: 田中正彦)

田んぼの米づくりもうまくいくことでしょう。

年末のもちつきでついたお餅を焼いて、お雑煮にしたり、しょう油をつけて食べたり、ごちそうに舌鼓。お腹いっぱいになったところで、小学生が企画した谷津田運動会をしました。ツルの輪投げ、谷津田トライアスロン、セイタカアワダチソウのやり投げ、長息競争・・・どれもおもしろくて大人の方が真剣でした。ホントに心地よい天気の下、お腹も気持ちも満足感いっぱいの日でした。今年もよい一年になりそうです。

(参加者 大人 25 名、小学~高校生 6 名、幼児 3 名; 報告: 高山邦明)

第 29 回 小山町 YPP「自然観察会」

2008 年 1 月 19 日(土) 晴れ

たくさん参加してくれた子どもたちと谷津を散策しました。この季節、生きものの姿は少ないのですが、日当たりのよい田んぼの畦ではテントウムシやクモが顔を見せてくれました。田んぼには一面氷が張っていて、踏みつけるとパリッという音がします。冬枯れの斜面林は探検するのに最適。秋にたくさんのアケビを見つけた場所から入ってやぶの中を丘の上まで登ってみました。ツルに足を取られたり、つかんだ木がトゲだらけのサンショだったり、大変な山登りだけに頂上に着くとみんなで笑顔のピースサインです。散策のあと、みんなで育てた緑米で作った山菜おこわをいただきました。蒸し器で作り立てのおこわをおいしい空気の谷津で食べるのは最高でした。食事のあと、子どもたちは竹の棒を倒すゲームを考案して歓声を上げながらいつまでも熱中していました。

(参加者 大人 6 名、小中学生 7 名、幼児 1 名; 報告: 高山邦明)



斜面林のやぶの中をたんけん(撮影: 高山邦明)

谷津田・季節のたより

下大和田町

1月 2日 田んぼが全面凍る寒さの中、ホオジロやセグロセキレイが元気にさえずる(高山)。

1月 26日 日中、斜面林の葉を落とした雑木にフクロウの姿(網代)

小山町

1月 3日 モズがホオジロの地鳴きをまねる(高山)。

1月 14日 マヒワの群れが杉の実を食べていた(高山)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第30回 小山町 YPP「田んぼづくり」

今年地元の小学校が米づくり体験をする田んぼを作ります。アシ原となっている耕作放棄田をスコップで少しずつ起こしていきます。6月の田植えに向けて少しずつ作業を進めます。小さなお子さんでも大丈夫!

日時: 2008年2月16日(土) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

持ち物: 長靴、軍手、飲み物、敷物など

参加費: 100円(資料代など)

第81回 下大和田 YPP「田んぼの手入れ、林の手入れ / アカガエルの産卵調査」

今年も米づくりをする田んぼの畦や放棄された田んぼ、そして林の手入れをします。人が手を入れて豊かな自然が保たれてきた谷津です。今年も生きものでいっぱいになることを思い描きながらにぎやかに作業しましょう。恒例のアカガエルの卵塊調査もします。

日時: 2008年2月23日(土) 10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。

また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停に 10:00 (JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで 45 分<千葉駅発 8:53、9:08、9:23 など> 料金は 520 円)

持ち物: 長靴、帽子、軍手、弁当、飲み物、敷物など。

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第98回 下大和田 3月の谷津田観察会とごみ拾い

早春の花やメダカやオタマジャクシも現れ始めます。冬鳥ともお別れの頃です。

早春の谷津田を散策しましょう。

日時: 2008年3月2日(日) 10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場向かいラーメンショップ脇に 10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、弁当、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

編集後記 「会津農書」という元禄時代に書かれた農学書に米づくりのことが実に詳しく書かれていることを知りました。谷地田、いつも水が入り込む卑泥(ひどろ)田など田んぼを区分し、タイプごとに田起こしのタイミング、施肥の仕方などが実に丁寧に解説されていることは驚きでした。機械や農薬を使った近代農業により失われた伝統的な技術を学ぶには最適な教科書です。

(高山邦明)